

◆第1回～3回の検討委員会、保護者・生徒・教職員のアンケート調査結果、高知江の口養護学校 PTA・教育後援会・同窓会との意見交換、高知江の口養護学校教職員との意見交換での主なご意見

【教育内容等について】

○社会性やコミュニケーション力を育てることが重要（小中高等部共通）

- ・社会性等を育成するためには、心身症等の精神疾患の児童生徒の中には、居住地校で原因がある場合があるため、まずは、特別支援学校のある地域（小中学校、高等学校、地域の企業、医療機関、福祉施設等）での交流及び共同学習の充実が必要ではないか。
- ・慢性疾患や心身症等の軽度の児童生徒は、居住地域に帰る可能性があるため、居住地校交流の充実が必要ではないか。
- ・通常の学校との関わりや就労体験など、いろいろな体験を通して社会性やコミュニケーション力を伸ばし、将来の就職につなげることが必要ではないか。
- ・効果的な支援を行うためには、個別的な指導の時間の確保が必要となり、そのための環境や人的な資源が必要ではないか。
- ・社会性や自尊感情を育むための自立活動（ソーシャルスキルトレーニング等）の指導などの充実が必要ではないか。

○慢性疾患と心身症等の精神疾患の児童生徒の教育的ニーズや感染症の問題等により、教育内容や教育環境など柔軟な対応が必要（小中高等部共通）

○不登校状態にある児童生徒に対して、ICT機器を活用した通信教育のような対応（小中高等部共通）、あるいは、高等部においては単位制や通信制等、教育課程の検討が必要

○高等部の教育課程にはⅠ・Ⅱ型があるが、県外の事例なども参考にし、進学と就労の両方に対応するカリキュラムが必要

- ・就労に向けて、必要なコースや学科の検討（たとえば介護等）が必要ではないか。

【専門性について】

○教員の専門性の向上が重要

- ・発達障害の児童生徒に対する教育対応についての専門性の向上が必要ではないか。
- ・慢性疾患に対する病識理解を含めた専門性の向上が必要ではないか。
- ・児童生徒の状態について見立てができ、その状況を理解し、児童生徒に対する学習をプログラムできる教員の専門性が重要ではないか。

- ・教員の専門性の向上のためには、発達障害・慢性疾患等についての講習や演習を定期的実施していくとともに、校内での効果的な実践例を教員間で共有する研修が必要ではないか。
- ・障害についての理解は、必要な機関と連携しながら、知識・技能の向上と併せて、カウンセリングマインドを身につけることが必要ではないか。
- ・教員の専門性を担保するためには、教員の在籍年数のバランスに配慮した組織づくりが必要ではないか。

#### ○センター的機能の充実が重要

- ・発達障害やメンタル的に二次障害が発症している児童生徒に対する専門性が重要ではないか。
- ・通級的な支援ができるような体制が必要ではないか。
- ・外部支援を担うための担当教員の養成と人材確保が重要ではないか。
- ・在籍年数が長い教員と短い教員とのバランスが重要であり、キャリアに応じた教員間での情報交換や学習会が必要ではないか。

○就労を踏まえた自立と社会参加を考えると、「企業が障害のある人に求めるもの（花熊暁氏講義より）」の6項目を支援・指導できる教員の専門性が重要

### 【施設・設備について】

○慢性疾患の児童生徒に対応した施設・設備に加えて、心身症や不登校の児童にも対応した施設・設備の充実が必要

- ・別室登校ができる部屋やクールダウンができる部屋の確保が必要ではないか。
- ・グラウンドやプールなどの施設の整備が必要ではないか。

○寄宿舍の整備・充実が必要

- ・現在、寄宿舍は複数定員の部屋になっているが、プライバシーや発達段階を考慮して、個室も検討すべきではないか。
- ・共同生活の利点を考えると、100%個室にするのではなく、ケースバイケースで対応できるよう、複数定員の部屋も必要ではないか。
- ・生活リズムを整えたりする等のための教育入舎のシステムも必要ではないか。

○バスの本数が少なかったり、乗り換えが必要であったり、また、一人では移動が困難な子どもたちがいるため通学バスが必要

## 【関係機関等との連携について】

### ○他機関との連携が必要

- ・慢性疾患、心身症等の精神疾患のどちらにも医療機関との連携が必要ではないか。
- ・医療機関以外の相談機関や福祉機関との連携が必要ではないか。

### ○児童生徒の病状によっては、看護師の配置が必要

### ○カウンセリング機能の充実が必要

### ○病弱特別支援学校について医療機関及び教育機関への広報・周知が必要ではないか。

## 【その他】

### ○病弱の子どもの現状について

- ・慢性疾患の子どもの全体の数は大きくは変わっていないが、医療の進歩により、長期の入院は少なくなっており、高知江の口養護学校の対象の子どもが減少しており、今後、増加することはないのではないか。

### ○特別支援学校についての偏見がいまだにあるので、社会全体の理解を進める必要がある。

※文字のフォントがゴシックで太字の所は、高知江の口養護学校 PTA・教育後援会・同窓会との意見交換でいろいろ出されたご意見の中で、これまでの検討委員会に出ていなかったものを記載しています。